

HELLO PSJ

From a postdoc to a PI

Dept. of Biomedical Sciences, Univ. of Maryland Baltimore 御園生裕明

日本で Postdoc を始めてから 2 年経った 2000 年, 米国留学に動き出すことにしました. 留学の動機は早い時期にラボを持てる可能性があるから. 私の興味は, 神経細胞がどのようにいろいろなタンパク質を異なった場所に運ぶのかということ. そこで protein trafficking の研究を行なっている lab に応募することにしました. Sciencejobs.com で最初に見つけた募集が, James Trimmer という人が State University of New York という聞いたこともない大学で開いている lab でした. 調べてみると, 研究内容が非常に面白い. それに論文をいい雑誌に出している. というわけで, 早速 E-mail にて応募しました. 日本時間の夜 10 時頃にラボから送信して, その後酒を飲んでいる間に Jim から興味ありとの返事が来ていました.

NY は Long Island に渡ったのはそれからほぼ 1 年後の 2001 年 8 月. 行ってみると, Jim は sabbatical leave を取って 1 年間 Stanford に滞在し, NY の lab にはいない! 心細くはありましたが, 独立して研究することができたのは良い経験でもありました. 渡米した当初は英語の聞き取りが大変で (Long Islander は早口) 苦労しました. しかし technician の Lynn というきれいなおねえさんがいろいろいたずらを仕掛けて来て (背中に 'kick me!' とか貼られる), 黙って実験することが許されなかった (黙っているとなんかいたずらされる), 非常に濃密な英語の特訓になりました (写真 1). 彼女がいなかったら, いまだに英語で苦労していたでしょう.

さて Jim のラボでは ion channel 特に voltage-dependent K^+ channel の研究を行なっていまし

た. Jim の興味は, たくさんある K^+ channel がいかにして特異的な場所に運ばれるのか, ということです. 1 年後には Jim も戻り, すばらしい同僚たちに囲まれ楽しい lab life を過ごしていました. ところが, ようやく data が出始めた 2003 年 5 月, Jim が University of California Davis に移ると宣言しました.

Jim の奥さんの Joanne も同じ大学で Professor でしたが, 彼女は南 California 出身で寒い NY が大嫌いです. そういうわけで彼らは密かに(?) 職探しをしていたらしいのですが, とうとう移ることに決まったのです. 私にも来て欲しいということだったので, まだ論文を出していない身としては助かりました. さらに良かったことは, UC Davis では faculty position で雇ってくれたこと



写真 1. NY.jpg : ポスがいなかった頃の Trimmer lab @ Long Island. 一番高いところにいるのが筆者. 口を指で横に広げているのが Lynn. 右下は不在の Jim.

です。独立 position ではなく、基本的には研究だけして、grant で給料が保証されている限りはいつまでいてもよい、という立場です。こちらでは tenure-track faculty (professor) に対して、research-track faculty と呼ばれることもあります。現実的な利点としては、Principal Investigator (PI) として grant に応募できるということです。運良く private grant を獲得することができ、将来の職探しに箔がつかしました。またこの移動(異動)はラボの setup ということでも役立ちましたし、faculty meeting にも参加したので、recruitment がどのように行われるのかも知ることができました。大陸横断引っ越しは大変でしたが、研究の方は順調に進み、2004年夏にようやく論文が high visibility journal に出ました。自分の売り時です。

私の友達はたまたま寿司屋で一緒になった某大学の Chair と話が合って、そのまま職が決まったそうです。そういう特例は別として、通常は Assistant Professor の募集広告を探すことになります。旬の9月頃には毎日新しい募集が出るので、頻々と Sciencejobs.com などをチェックし、最終的には20カ所程度に応募しました。ここ University of Maryland Baltimore (UMB) には、2005年4月に応募書類を送り、6月に interview の招待が来て、実際に行ったのは8月でした。Interview は2日間で、15人の faculty と40分ずつ会うという、非常に疲れるものでした。途中にはもちろん1時間の job seminar をしたり、お昼も grad students と食べたり、全く休む暇なし。その1月後の9月には second interview に呼ばれました。この時は将来計画について詳細に chalk talk をし、Dean (school の長) にも会いました。その3日後にあっけなく Department Chair から tentative offer が来ました。Startup も納得できるもの(5000万円くらい)だったので negotiation もすんなり進み、2006年7月より、UMB の Assistant Professor になりました。

職が決まってから実際に移るまでには、筆舌に尽くしがたいくらいにいろいろあったのですが、ともあれ2006年9月に待望の my own lab をス

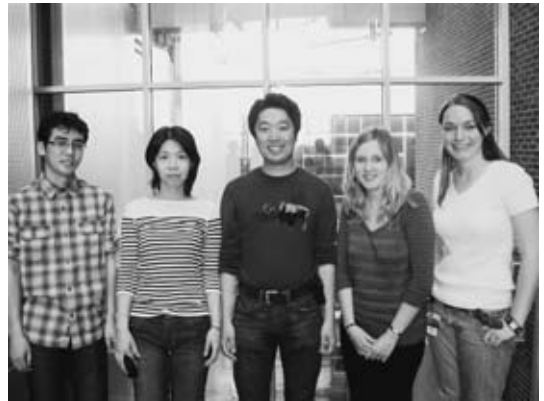


写真2. Miso-lab.jpg: Lab members in Miso lab @ UMB. 左から Yoshi, Kaori, Miso, Camilla, Ashley.

タートしました(写真2)。Lab では ion channel の regulation と神経細胞機能における意義について研究をすすめています。脳虚血や痛みなどの病理学的な観点を取り入れることで、独自性を出しています。私の所属する UMB の Dental School は世界で最初に設立されたそうで、中には basic science research を行う Department of Biomedical Sciences があります。また2006年12月に \$150,000,000 をかけた新しい building に school 全体が移りました。Department 内には Neuroscience, Cell Biology, Microbiology tracks があり、歯科に限らず、幅広い基礎研究を行なっています。Neuroscience track には16人の faculty がおり、痛みの研究を中心に行っています。UMB は department 内、間の共同研究が多く、居心地はいいです。Startup は予想していたより順調にしています。ただしこちらの事務仕事の遅さや、頻繁な facility のトラブル(水漏れ、停電)にいい加減慣れてしまったせいでそう思うのかも。研究内容などに興味のある方は是非 E-mail を!

メールアドレス: hmisono@umaryland.edu

HP: <http://neuroscience.umaryland.edu/faculty/default.asp?ID=315>